

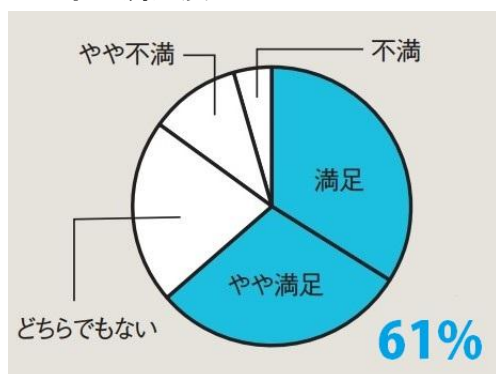
被災 3 県に赴任した人材の声

「WORK FOR 東北」を通じて被災 3 県に赴任した方々を対象に実施したアンケートの結果をご報告します（回答者数 28 名、2014 年 12 月実施）。

- 男女比は 2 : 1。平均年齢は約 37 歳。
- 赴任前の居住地は関東が 43%、北海道・東北が 25%。
- 着任時期は 2014 年 4～9 月が 70%、それ以降が 22%。
- 今の仕事を選んだ理由は、64%が「被災地の復興に携わりたい」と回答。

●61%が今の仕事に満足。課題はありながらも様々な価値を感じる。

＜仕事の満足度は？＞



「どちらでもない。自分の関わっている事業を市が積極的に展開しており、職員の意識も高い」

「やや満足。業務内容はやりがいがある一方で、業務を進める過程での行政の意思決定に時間がかかりすぎている」

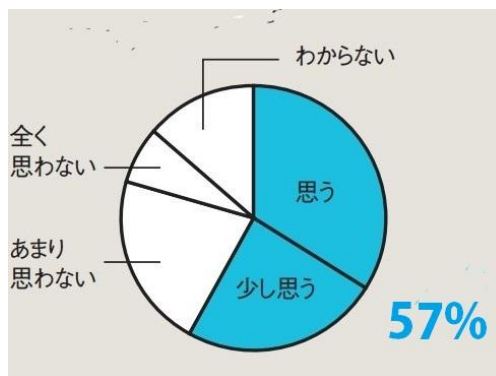
「満足。町民の方々の期待を大いに感じる」

「満足。業務範囲・視野・人脈等が広がった」

「やや満足。当初の目標、計画についてはほぼ達成し、それ以外の収穫も多かった」

●半数は復興に寄与しているとの実感はあるものの、「まだこれから」という人も。

＜復興へ寄与していると感じる？＞



「思う。目の前の人たちが笑顔でいてくれるから。また、やる気になった人が生まれているから」

「思う。町の人々から相談を受けるようになった」

「まったく思わない。現時点では何の結果も出せていないため、申し訳なく思う。しかし、期間満了までに必ず結果を残したい」

「わからない。復興への寄与については、一定の期間が経過しないと客観的に評価できないと考えているため」

●仕事での苦労・課題は、これまでの環境との違いや様々なステークホルダーとの関係構築など。

＜苦労や課題に感じることは？＞

「支援先の要望や期待に応えることと、主体性をもってもらふことのバランス」

「地元出身でないため、信頼関係をつくるのに時間がかかる」

「国や県との折衝・交渉の手順・方法等がわからなかった」

「団体と地域の認識のギャップ。間に入って調整をしなければならないこと」

「核となる収益事業を確立させるための環境整備が大きな課題」

日本財団「WORK FOR 東北」では、集合研修の開催、人的ネットワーク構築の支援などを通じて、赴任した方々が復興の現場で能力を発揮できるようサポートを行っています。